

～ All for one, One for all. ～

使徒行伝 第二〇章  
三五節

わたしは、あなたがたもこのように働いて、弱い者を助けなければならぬこと、また『受けるよりは与える方が、さいわいである』と言われた主イエスの言葉を記憶しているべきことを、万事について教え示したのである。



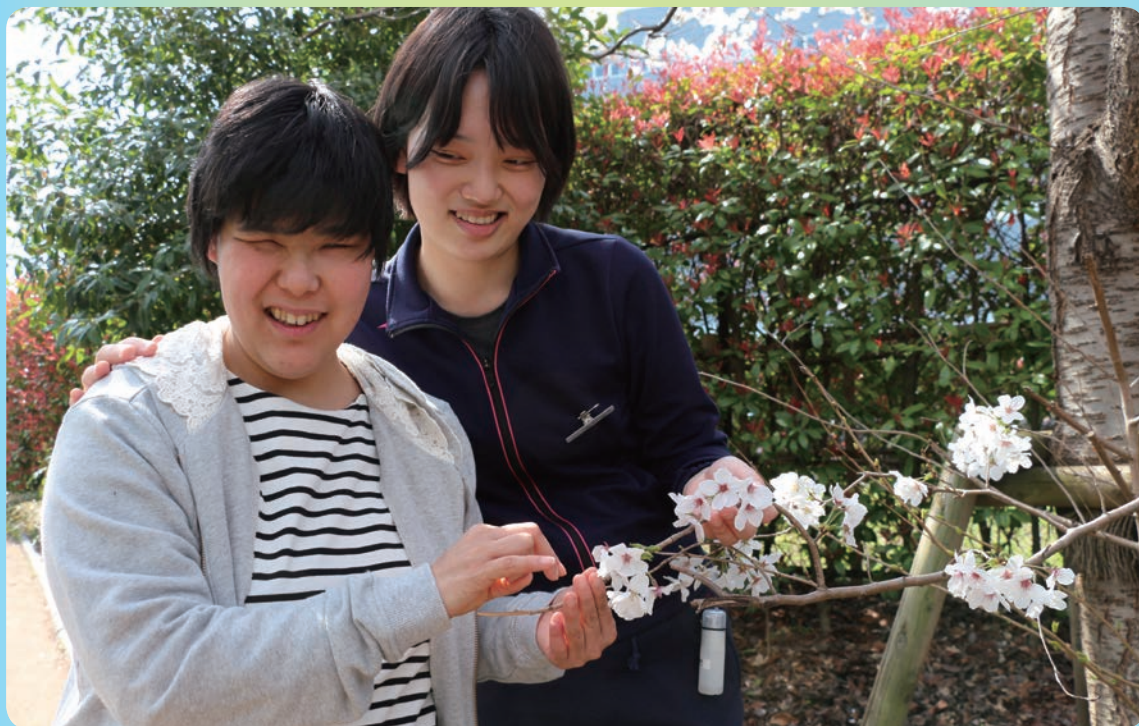
# 光の家

THE LIGHT HOUSE FOR THE BLIND

視覚障害者総合福祉施設  
東京光の家会報

— 221 号 —

2023 年 4 月 25 日発行



桜の花に触れながら春を感じる利用者

## 巻頭言

街を彩った桜の花も散り、新緑の間を爽やかな風が吹き抜ける季節となりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。

今号の外部寄稿は、毎月第四日曜日に光の家の聖書集会で講話をしていただいている田中健三先生に「からし種」というタイトルで寄稿を頂きました。

文中で先生は、光の家をマルコによる福音書で登場するからし種（神の国の譬え）のような存在だとおっしゃって下さっています。目立たない小さな存在がとて大きく成長する可能性がある譬えだそうで、とても誇らしい気持ちになりました。

私たち職員も、田中先生がおっしゃる「からし種」のように、目立たないけれども地道な取り組みを通して、利用者の皆様の希望となることができるよう、ささやかな努力を続けて参りたいと思います。

（広報活動委員）

## 『からし種』

東京光の家 日曜聖書集会講師 田中 健三



昨年から東京光の家に連ならせていただいております。特に日曜日の礼拝のお話を月一回ほど担当することになりました。皆様に対してどれだけの話ができるのかと毎回自分の無力を感じながら、むしろ皆様から学ぶつもりで通わせていただいています。

このような事になった二つの原因は、日野市で一人暮らしをしていた高齢の老母が倒れ、もはや一人暮らしは無理ということになり、私が日野市の実家に移り、母と共に暮らすよ

うになったことです。私は大学生の時に家族で日野市に移り、就職して家を出るまで住んでいましたので、久しぶりに日野に帰ってきたわけです。

大学を卒業して石油会社の事務として働いていたのですが、社会人一年目に内村鑑三の流れを汲む高橋三郎というキリスト教伝道者に出会い、その後三十二歳の時に、決心して会社を辞め、キリスト教や聖書を専門的に学び始め、紆余曲折ありましたが、現在は大学で聖書を中心に教えております。

さて大学生時代は東京光の家の存在を全く知らなかったのですが、光栄にも関わらせていただくようになり、よくその車を街中で見かけますし、

浅川を散歩していて職員の方から声をかけていただいたこともあり、いかに日野市に根付いている団体なのかということを実感しております。

会社を辞めて一時期一年間程、心の病を持つ方のための作業所の職員をしていたことがあり、その際に感じたことは、通所者はそれぞれの重荷をかかえているが、それはそれとして当然なことではあります。同じ人間だ、ということと接することを自然と教わったように思います。東京光の家の盲人の方たちについて、どのような苦勞があり、どのような思いを持たれているのか私自身まだまだわかっておりませんが、皆様の友人とさせていただけようになりたいと思っています。

新約聖書の「からし種」の譬え（マルコ福音書四章三十三節以下など）を大学でもよく学生に話すのですが、イエスが「神の国はからし種のようなものだ」と語っています。からし種とはゴマ粒ほどの小さな種なのですが、そんな小さな種が大きく成長する植物だそう

で、それと神の国は同じだといエスが言います。それはどういう意味なのか想像を膨らませる話ですが、少なくとも「見栄えない、皆に注目されたり、賞賛されたりするわけではないこと」それが意外にも成長し、大きくなるというのが「神の国」のあり方だという意味でしょう。そしてそのからし種をしつかりと見守っている神の存在を思わされます。東京光の家がそのような「からし種」として存在してきたことに感動しております。入居者や通所者の皆様、職員や関係者の方々の存在や働きによって、不思議と誰かを力づけているのではないかと拝察しております。



## 東京光の家の研修

東京光の家では、事業運営の重要な柱の一つとして人材育成を掲げており、様々な形で職員研修を実施しています。

三月には、令和五年度の新任職員に加え、令和四年度中に採用となった常勤、非常勤職員の方々にも参加していただき、

東京光の家の理念、各種サービスの心得と技術等について、四日間にわたり研修が行われました。

昨年度は、職歴一、二年の新任層と、光の家の中で最も多くを占める三年目以降の中堅層の

職員に対する研修を重点的に行ってきました。

職歴一、二年の新任層研修で

は主に社会人としての基本的な知識や、光の家で業務にあたる上で、習得しておくべき技術や知識、心構えなどについて、座学とディスカッション形式での集合研修が行われました。

中堅層研修では、光の家の中長期的な課題について、意見交換を行う宿泊での理念研修と、日常の業務内の実践事例について発表、意見交換を行う形式での研修を実施しました。

光の家では、階層別に理念の浸透を図り、愛のある利用者の支援につなげています。



令和 5 年度「新任職員研修」



職歴 1 年目研修



宿泊型中堅層理念研修

## 地域合同 防災訓練

令和五年三月九日(木)



光の家では年間の防災訓練の中で、近隣自治会や企業との間で合同防災訓練を行っています。昨今の時勢から本来規模での訓練は難しかったのですが、今年はようやく相互応援協定先の皆様にもご参加をいただくことができ、災害時のシミュレーションと避難の実際を訓練できる機会となりました。



近隣自治会と企業の方々に協力してもらいました

## 第四十八回 創立者秋元梅吉追悼集会

令和五年二月八日(水)  
会場…東京光の家講堂

東京光の家の創立者、秋元梅吉先生を追悼する会が開催され、各施設の代表者が講堂に集いました。

石渡理事長の追悼の辞では、創立者の「盲人には聖書の福音を」という理念から、光の家の前身である盲人基督信仰会が設立され、神への絶対的な信仰があったことが語られ、光の家の基本理念を確認することができました。



石渡理事長による追悼の辞

# 令和四年度 締めくくりの会

令和五年三月十六日(木)  
二十四日(金)  
会場…東京光の家講堂

光の家の各施設において、今年も三月に年度を締めくくる会が開催されました。

コロナ禍の三年間。会の開催も、いかにできる範囲で充

実した内容を盛り込んでいくか、それぞれの施設で創意を尽くして行ってきました。昨今の状況を踏まえ、僅かずつながらできることも増え、今回は保護者の方やボランティアの皆様にも、参加いただく

事が叶い、感謝の気持ちでいっぱいでした。  
それぞれの会においては各種表彰やアトラクション、豪華な会食の機会など、日常とは異なった雰囲気の中、一年の活動や無事過ごせた事に感謝し、次年度への英気を養う良い行事となりました。本当に色々大変なことが多かった一年、皆でお祝いできたことに感謝いたします。



新生園「納め会」



栄光園「みのりの会」



神愛園「感謝会」



就労ホーム「結の会」





今回のテーマは「みんなの SDGs ～希望～」です

「手さぐりの作品展」がまは美しい海への願いを込めています。今回も無事に開催できたことは多くの来場者と、様々な団体のご協力の賜物と思っております。

今年度も「手さぐりの作品展」がイオンモール多摩平の森にて開催され、法人を上げて作品作りに励みました。今回のテーマは「みんなの SDGs ～希望～」です。芸術活動を通して障害を持つ方の垣根はないという平等への

メッセージを込めました。展示した作品の中で、聖書の世界観を表現した「羊飼いのいる風景」は点字用紙を再利用し、子羊を作成しました。また木工作品の「クジラ」は、一見きれいで雄大に見えますが、実はペットボトルキャップを飲み込んでいます。これ



第26回

# 手さぐりの作品展

令和五年二月十七日(金)～十九日(日)  
会場・イオンモール多摩平の森イオンホール



平和を願うウクライナ色を使った籐細工



キャップを飲んでしまった「クジラ」

た一つ地域に根差した形となり、感謝でいっぱいです。誠に



色鮮やかな織物に触れる利用者



再生点字用紙で作成した「子羊」

にありがとうございました。

光の家神愛園



坂手 悠真  
新見公立大学卒

光の家栄光園



影山 幹太  
工学院大学卒

光の家新生園



北御門 真仁  
日本社会事業大学卒

令和五年度

新任職員紹介



光の家グループホーム



坂本 和輝  
立正大学卒

光の家就労ホーム



清野 美優  
山形大学卒

今年も東京光の家に、新しい職員が加わりました。若さあふれる五人です。ご活躍を期待しています！



働く現場を体験してもらいました

光の家では近隣自治体の依頼等があった場合、様々な見学や、体験の機会を提供し、受け入れを行っています。今回は中学生の職場体験として、光の家各施設で活動をしていただきました。利用者と実際の支援を通じた福祉現場の体験。皆さん戸惑いながらも、コミュニケーションを通して目を輝かせている姿が、とても印象的でした。

立川第七中学校  
職場体験

令和五年一月二十五日(水)

日野市立旭が丘  
小学校見学

令和五年三月(百未)



熱心に光バンドの歌に聴き入る小学生

日野市立旭が丘小学校のみなさんが、光の家を訪問し、作業見学や、アイマスクを着用して盲人バレーボール体験を利用者と一緒に行いました。また見学のまとめでは、光バンドメンバーの演奏を聴いていただきました。

今回の見学を通して、視覚障害を持つ方々の理解につながる経験をして頂くことができました。





新生園入所式（利用者 4 名）



就労ホーム入所式（利用者 4 名）

**令和5年入所式**  
光の家就労ホーム  
光の家新生園  
令和五年四月三日  
令和五年四月六日  
会場：東京光の家講堂



二十歳の節目をお祝いしました

今年度は、就労ホームの五名の利用者が二十歳を迎え、当日は三名の利用者を新生園有志、グループホーム有志の皆さんでお祝いしました。おめでとうございます。

**二十歳を祝う会**  
令和五年一月九日  
会場：東京光の家講堂

## 同行援護従業者養成研修 受講生募集（東京都指定研修）

～視覚障害者との歩き方・援助の仕方を学びませんか～

〔研修期間〕 令和5年5月20日（土）～ 21日（日）

通信期間：令和5年4月18日（火）～ 5月19日（金）

通学期間：令和5年5月20日（土）～ 21日（日）の2日間

〔場 所〕 東京光の家 地域交流センター 研修室他

〔費 用〕 9,400円 〔定 員〕 18名 ※定員になり次第メ切

〔研修修了者〕 同行援護従業者の認定資格を取得

〔お問い合わせ〕 東京光の家 TEL：042-581-2340



### 寄付者名簿

期間：令和四年十二月十五日～  
令和五年三月二十四日



古川裕子

米 二〇 kg  
干し芋 六 kg  
もずく 一七 kg

小園江康様

ポテトチップス 一二〇袋  
チョコレート菓子 一〇四袋

社会福祉法人  
日野市社会福祉協議会様

松久小登美様

ほうれん草 一七 kg

社会福祉法人

ティッシュ 五箱

株式会社リードリアルエステート様

お米 一二 kg

青木信利様

玄米 三〇 kg

鈴木芳枝様

お茶 一箱

山崎郡治様

みかん 一七〇個

澤口チヨ様

りんご 三〇個

安積和男様

漬物 二 kg

# 新春市民交流コンサート

令和五年一月九日(月)  
会場：イオンモール多摩平の森

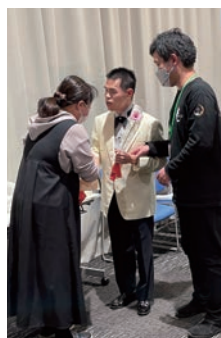
イオンホール

イオンモール多摩平の森と日野市ボランティアセンター共催で、市民との交流を目指したコンサートが開催され、光バンドが演奏を行いました。

当日は無料のチケットをイオンモールに買い物に來ているお客様に配布させて頂きました。光バンドの事を日頃から応援して頂いている方は勿論の事、日頃イオンモールで買い物をされている市民の方々に、改めて東京光の家の事を知って頂く良い機会になったと思います。小さなお子さんから高齢の方々まで幅広い世



イオンホール会場



演奏後に花を受け取る中西さん

午後二時からと午後三時三十分からの二部公演で、それぞれ六曲の演奏を披露しました。コロナ禍ではありましたが、今回は日野市社会福祉協議会の方々が飛沫防止シート準備して下さるなど、お客様も、メンバーも安心できる演奏会になりました。演奏したメンバーも久しぶりにお客様との近い距離を感じる事が出来てとても良い演奏会になりました。



演奏する光バンドメンバー

## 快晴の桜まつり

令和五年四月一日(土)  
会場：日野市 旭が丘中央公園

いい天気の中、三年ぶりに桜まつりが開催されました。地域の皆様も心待ちにされており、中央公園はお祭りを楽しむ人で賑わっていました。光の家もポップコーンやピザの販売、手さぐりの作品展に展示した作品を並べ、地域の皆様に見て頂き、大好評でした。



桜花爛漫の旭が丘中央公園

## 神愛園作業作品 城山かたくりの里販売

令和五年三月十五日(土)、四月一日(土)、八日(土)、十五日(土)

今年も昨年に引き続き神奈川の花の名所一〇〇選にもなっている城山かたくりの里の一面をお借りして作業作品の販売を実施することが出来ました。三月の初日はあいにくの雨天となってしまうましたが、珍しいカタクリの花を目的に來場されたお客様に利用者が作った平織マットや牛乳パックをリサイクルして作った和紙製品などをご購入していただきました。



雨でも風情のある  
かたくりの花

※紙面の写真は、すべてご本人の許可を得て掲載させて頂きました。

発行 行 一九一〇〇六五  
東京光の家  
社会福祉法人 東京光の家  
F A X 電話 〇四二(五八一)二三四〇  
〇四二(五八一)九五六八